

厚岸町導入事例

2011年3月の東日本大震災で津波が押し寄せ、庁舎が水で囲まれた経験を持つ厚岸町。
住民情報をいかに守るかを最優先に考え、先進的な災害対策を推進している。



目的

- 大規模災害時にも住民情報を守ることができる環境へ移行
- 情報システム部門の管理負荷の低減
- ハードウェアセキュリティの強化

アプローチ

- 地元のクラウド業者のデータセンターへサーバーを設置し、デスクトップ環境をDaaSとして利用
- VMware View
- HP t620 Thin Client

導入の効果

- 運用開始後、電気代が下がっており、職員が節電を意識せずとも、大きな効果を発揮している。
- 端末の障害発生や不具合時の対応が端末交換のみの対応となり、大幅な管理工数削減を実現した。

ビジネスの効果

- 情報システム部門にて管理する対象はシンクライアント端末のみとなったため、専門知識が不要となり、頻繁に起こる人事異動時の引き継ぎがスムーズとなった。
- 職員への説明会を手厚く実施したため、セキュリティに対する認識の向上、スムーズな移行の実現につながった。



総務課 兼 広報情報係
課長補佐
田崎 清克様



総務課
主事
高江洲 真様



総務課
主事
杉澤 凌太様

2014年4月、北海道南東部にある人口1万人ほどの小さな町で、先進的な災害対策が遂行された。厚岸町だ。従来、情報システム部門で管理していたサーバーを地元のクラウド業者のデータセンターへ移行。さらに、VMware Viewによるデスクトップ仮想化環境を新規導入し、DaaSとして利用している。有事の際の環境を整えるだけでなく、以前から課題であった情報システム部門の管理負荷軽減、セキュリティ強化も同時に解決した。小さな町でもここまでできる、厚岸町の熱い思いが形となり、大きな効果を発揮している。

東日本大震災での津波経験を経て災害対策を推進

厚岸町は北海道の南東部に位置する漁業・農業が中心の町。町の南部には厚岸湾が深く入り込み、ここにかかる真っ赤な厚岸大橋は町のシンボルとなっている。陸にはラムサール条約で守られている別寒辺牛湿原や根釧台地に広がる大型酪農地帯が広がり、海はミネラルが豊富で一年中おいしい牡蠣が取れる、自然に富んだ町。約1万人の住民は自然環境を保全しながら一次産業に結びつけ、自然とともに生活をしている。

町内全域に光ファイバを張り巡らせ、全世帯にテレビ電話を無償提供。町民同士は無償でテレビ電話ができ、ほぼ毎日テレビ電話で行政情報を流すなど、先進的な住民サービスを提供している。2011年3月の東日本大震災の際、厚岸町庁舎は津波で囲まれた。太平洋沿岸東部に大津波警報が発令され、海から100m、海拔1mの庁舎では、通常業務がままならない状態に陥った。この経験から、住民のデータや行政情報を何としても守り、災害時でも通常業務や住民へ情報配信を継続させる仕組みとして、北海道のシステムインテグレーターである株式会社エイチ・アイ・ディのデータセンターへのデータ移行と、端末のシンクライアント化という結論に行き着いた。

DaaS を採用。 専門知識が必要な管理は 専門業者に任せ、効率化を図る

「はじめからシンクライアントに決めていました」と田崎氏。近隣自治体でのシンクライアント導入事例を見学し、シンクライアントの実力を実感し

ていた。将来的にはシンクライアントを導入したい、と以前から考えていたそうだ。

シンクライアント化で期待する効果はバンデミック対策のみではない。日頃のPCの管理業務の負荷が非常に大きく、少ない情報システム担当者で対応するには限界があった。また、担当が変わることも多々あり、専門知識が必要となる管理遂行することが難しく、なるべく業務を簡素化する必要性があった。

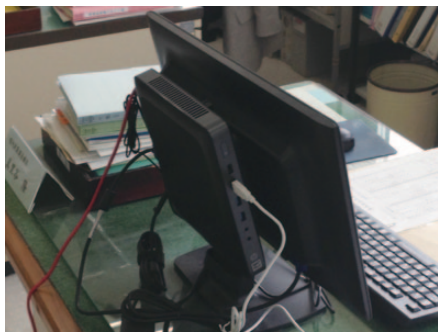
DaaSを採用することで、情報システム部門での管理対象はシンクライアント端末のみとなった。シンクライアント端末の管理は専門知識を必要とせず、障害時も交換対応のみというシンプルな運用が可能だ。専門知識を必要とするサーバー運用はすべて専門業者に委託し、デスクトップ環境を必要なだけサービスとして利用している。またセキュリティ対策もシンクライアント化を決めた理由の一つに挙げられる。情報漏えい対策はモラルの問題も大きいですが、ハードウェアで防止できる部分も多く、シンクライアント化は大きな効果をもたらすと考えた。

スムーズな移行と職員への配慮

2012年からディザスタリカバリプロジェクトがスタート。約8か月の構築期間を経て、204台のシンクライアント環境が稼働開始したのは2014年春だった。

以前からファイルサーバーが導入されており、職員のPCのローカルディスクにデータを保存しない運用をしていたため、データ移行は約2週間ですムースに完了したという。

厚岸町が力を入れたのは職員への説明だ。シンクライアントはどういうものなのか、なぜシンク



HP t620 Thin Clientをディスプレイの背面に背負わせて使用している。

クライアントを導入するのか、という点から丁寧に説明し、導入の必要性や、導入によって職員のオペレーションがどのように変わるのかを理解してもらったという。前提知識がなかった職員も、PCと使い方や利便性は大きく変わらないという認識を持つことができ、職員へのインパクトは最小限に抑えることが可能となった。

稼働開始で実感した “見える効果”と“見えない効果”

稼働開始から約4か月。ディザスタリカバリ対策は導入効果を計ることは難しく未知数だが、有事の際、住民のデータを守ることができる安心感を得ることができている。

端末のトラブルは激減し、「端末に関する不具合で情報システム部門の職員が対応することはほぼなくなった」と田崎氏。不具合時も交換対応のみというシンプルな運用となり、対応に要する時間も大幅に短くなった。職員からの問い合わせについても、稼働当初はいくつかあったものの、運用開始後、しばらくするとほとんどなくなった。まだ明確にコストとしては表れていないが、情報システム部門職員各々のタスクが軽減されたということは確実にコスト削減につながっていると考えている。

また、電気代についてはすでに効果が表れている。

る。節電を徹底しても、PCの電気使用量は職員一人一人のオペレーションに依存してしまう。節電意識の根本的改革は非常に困難であり、オペレーションの徹底のみだと、節電効果は限定的であることが多い。シンクライアントは機器そのものの消費電力が非常に少ないため、職員の節電意識の有無に依存することなく、大きな効果を発揮している。この点は大きなメリットだ。

シンクライアント化は新しい IT 環境構築のスタート地点

今後の展開にゼロクライアント化を挙げた厚岸町。「もっと職員が簡単に使えるように、よりシンプルに、よりわかりやすくしてあげたい」と田崎氏。そのためには職員に見せる画面やプロセスをきちんと整理して、必要な操作のみを行える環境を提供したいとのこと。

また、今回のシンクライアント化により、どの端末からでも自分の環境にアクセスできる、フリーアクセスを実現したが、もっともっとローケーションフリーな環境の実現を視野に入れている。そのため無線LANの導入、タブレットなどマルチデバイスの採用など、様々な取り組みを検討しているとのこと。

厚岸町は今後も先進的な取り組みを推進し、更なる進化を目指している。

厚岸町 概要

厚岸町役場所在地

厚岸町真栄3丁目1番地

総人口

10,212人(平成26年5月31日現在)

世帯数

4,481世帯(平成26年5月31日現在)

概要

北海道の南東部に位置し、東は浜中町、北は標茶町、西は釧路町と接する。南には厚岸湾が深く入り込み厚岸湖に通じており、漁業と酪農が中心の町。

特産物

牡蠣、アサリ、サンマ、サケ・マス、昆布、ツブ、ウニ、イカなどの海の幸。

株式会社エイチ・アイ・ディ 概要

所在地

札幌市中央区北1条西8丁目2番地1
STV北1条ビル1号館

創業

1973年6月13日

代表取締役社長

岡部 仁彦

資本金

1億円

社員数

226名(2014年5月1日現在)

事業内容

システムインテグレーション、組込み系ソフトウェア開発、マルチメディアコンテンツ開発、アウトソーシング、STV放送業務支援

お問い合わせはカスタマー・インフォメーションセンターへ

03-5749-8343 月～金 9:00～19:00 土 10:00～17:00(日、祝祭日、年末年始および5/1を除く)

HPのシンクライアント製品に関する情報は <http://www.hp.com/jp/thinclient>

本ページに記載されている情報は取材時におけるものであり、閲覧される時点で変更されている可能性があります。予めご了承下さい。

本書に含まれる技術情報は、予告なく変更されることがあります。

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

記載事項は2014年8月現在のものです。

© Copyright 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

